

社会科の授業づくり

～発問の在り方～

岐阜県教育委員会

令和6年3月 更新

社会科における教師の発問

【主な場面】

- (1) 課題を設定する場面
- (2) 課題を追究する場面
- (3) 学習を深め、課題を解決する場面

(1) 課題を設定する場面 (導入)



【教師の発問例】

- 「どんな違いがあるかな。」 (比較)
- 「〇〇さんの発言や〇〇の事柄とつながることはあるかな。」 (関連)
- 「これまで学習したこととつなげると、どんなことが言えるかな。」 (関連)
- 「知りたいことや分からないことはどんなことかな。」 (新規)

社会的事象に対する関心を高める発問

(2) 課題を追究する場面



【教師の発問例】

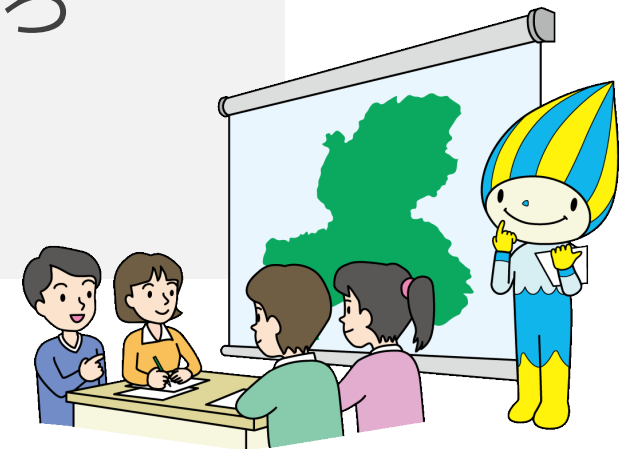
- 「どの資料からそのことが言えますか。」
- 「なぜそのように言えますか。」
- 「『多い（増えた）』という発言がありました
たが、どれくらいですか。」
- 「どんなことに着目していましたか。」
- 「まとめるとどんなことが言えますか。」



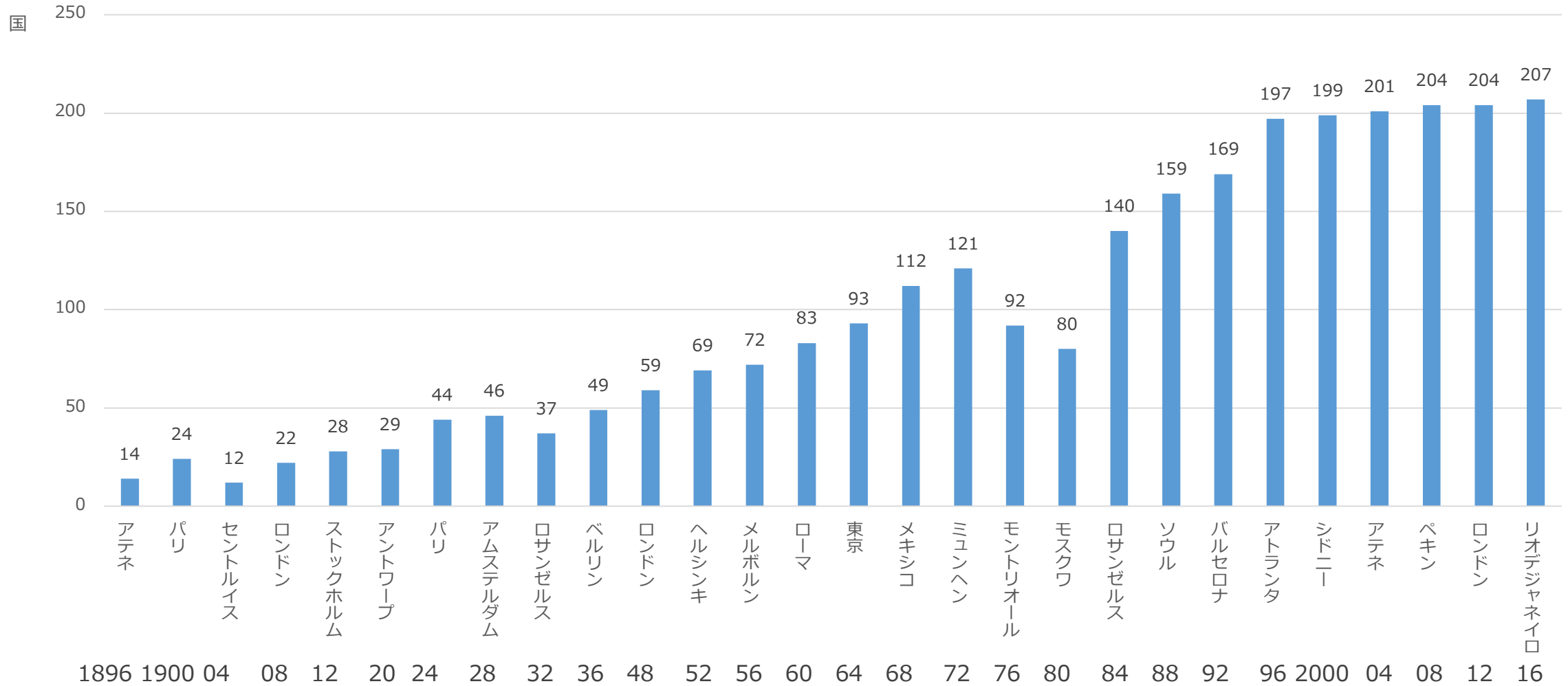
(3) 学習を深め、課題を解決する場面

【教師の発問例】

- 「〇〇さんと□□さんの発言の違い（共通点）は何ですか。」
- 「みんなの中には、～という考えが多いようですが、それならば、なぜ…なのでしょう。」
- 「〇〇の立場（視点）に着目するとどう思いますか。」
- 「この課題を解決するためには、私たちはどんなことから取り組むべきだと思いますか。」
- 「Aさんが、そこまで努力して取り組むのはなぜだろう。」



(例) 夏季オリンピックが開催された場所と参加国数の推移



国際オリンピック委員会資料より

社会科の授業づくり～発問の在り方～

岐阜県教育委員会